



四万十川財団設立 20 周年記念！首長インタビュー 第 1 弾 四万十町長 中尾 博憲氏

いつも清流通信をご愛読いただきありがとうございます。長年多くの方々にご支援いただいたおかげで、四万十川財団も 2020 年 2 月でついに設立 20 周年を迎えました。そこで今年度の清流通信では、財団 20 周年記念企画として、四万十川流域 5 市町の各首長へのインタビュー記事を掲載していきます！記念すべき第 1 弾は、財団の理事長をお勤めいただいている、中尾博憲四万十町長にお話を伺いました。

■ 町長が子どもの頃、四万十川での思い出は何かありますか。

中尾町長：たくさんありますよ。今でこそ河原に草がだいぶ多くなってきましたが、私が子どものころは、滑って歩みにくいくらい砂利が多かったんですよ。それでよくウナギを捕ったりもしたんですが、砂利の中からウナギの尻尾が出ているのをウバシ（ハサミの形をしたウナギを捕るための道具）で挟んで捕まえたりもしたんですがね、昔は砂利が多かったものですから、ウナギも逃げるときは砂利の中に潜って逃げていたんですよ。でも今は砂利が少なくなって岩場になっているので泳いで逃げるんですよ。やはりそういったところからも環境の変化というのを感じることはありますね。また、我々は“どんど”と言いましたが、流れがなくて深いところ、溜まりになっているところによく飛び込んだり、中学に上がると柿の木から飛び込んだりもしましたね。あとは小魚

を捕まえたり、ナマズを捕まえたり。幼少期の思い出はほとんどが川に関わることで、川と一緒に育ってきたという感覚ですね。昔は川や野山が子どもの遊び場でしたが、それは獲物がいたからなんです。資源と自然、そして私たちみたいな川ガキがたくさんいました。今の子はなかなかそういった経験ができない。川の楽しみを知らないというのもあるでしょうし、保護者や学校側が制限しているところも大きいと思います。

■ 子どもたちを川へ呼び込むために、どんなことをしていけばいいと思いますか。

中尾町長：やはり重要なのは川ガキを育てることです。財団でも川ガキ育成事業をやってもらっていますが、今の町のほうでも教育委員会や四万十川振興室に動いてもらって、川ガキの養成講座を作って、子どもが川で遊ぶ機会を生み出し、そしてその保護者も連れ出すことで、それをきっかけに川に目を向けてもらえるような仕組みを作っていきたいと考えています。例えば、今小学校の合宿は町外で行っていますが、四万十川をフィールドにやってみるとか。川で遊んだ思い出は印象深く残りますから、大人になったときにその楽しさを思い出して、また四万十に帰ってきたいと思うきっかけになるように、子どもが川と関わる場面を多くしていきたいですし、そういった教育をできるような土台づくりをしっかりとやっていかなければいけないと思います。これは学校だけで

は出来ませんから、行政や地域がしっかり関わって安全対策を講じたうえでやっていくことが大切ですし、単発的なものではなく、そういった学習を継続的に行っていくようにしっかり体制を整えていくことも必要です。今は家地川堰堤のダム湖でカヌー、SUP の体験イベントを 2 年前から行っています。また、家地川小学校を宿泊施設として活用できるように準備を進めているところですが、ゆくゆくは首都圏から修学旅行も受け入れて、都会の子どもたちにも四万十川で遊んだことを思い出してほしいと思いますね。

■ 川で遊ぶ子供が減っているのは今と昔の四万十川の大きな変化の一つだと思いますが、町長が感じる四万十川の昔と大きく変わったところはどこですか。

中尾町長：やはりゴミですね。世界的にもプラスチックゴミが問題になっていますが、中でも多いのは農業用資材ですね、これを押さえていくべきだと思います。これまでもゴミをとる作業は何度も行ってきましたが、これからはゴミが“出ない”時代にしていかなければと感じ



新型コロナウイルス感染症予防のため、マスクを着用して取材に対応していただきました。

ています。そのためには、農業用資材の回収をしっかり行って野積みさせないなど、個人レベルでできる対策を徹底させていきたいと考えています。また、四万十川には四万十川条例という四万十川を守るための決まりがありますが、今後はそれに加えて自治体ごとにもっと個別具体的に環境を保護する条例を作っていかなければいけない、そんな時期になってきていると思いますので、しっかり町としても取り組んでいきたいと考えています。

今回の取材で町として子どもたちが四万十川ともっと関わられるような場面を作っていきたいとのお考えを伺うことができました。四万十町とはこれまでも環境学習やイベントを通して、川と子どもを繋ぐ活動を行ってきました。また、これから四万十町が始める川ガキを養成する活動についても、財団と連携して取り組んでいきたいとお話も頂いています。これからも子どもたちに豊かな四万十川を残していけるよう流域市町としっかり連携しながら取り組んでいきます。



毎年、四万十川振興室と一緒に町内の小学校で環境学習を行っています。

イベント情報

■ #STAY HOME ! お家で四万十!

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、四万十川流域でもイベント自粛の動きが続いています。また、緊急事態宣言の発令に伴い、多くの観光施設や宿泊施設、飲食店が休業を余儀なくされています。そこで今回は、お家で簡単に事業者を支援できるサイトをご紹介します。ぜひお家で四万十を楽しんでください!

■ 「TSUNAGU」～高知家の底チカラ～

高知市が高知県内の事業者を対象に立ち上げた経済対策サイトです。様々な事業者の販売情報が掲載されています。

<https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/128/tsunagu.html>

■ コロナに負けるな! 四万十町応援大作戦

四万十町が町内の事業者の販売情報等を掲載しています。町外の方向けのページもあるので是非チェックしてみてください!
<http://shimanto-iju.jp/toppage/daisakusen2020/out-of-town-top>

■ 道の駅よって西土佐オンラインショップ

ストローベイル SANKANYA (現在臨時休業中)のお菓子セットの他、西土佐の美味しいものがたくさん揃ってます!

<https://shop.yotte.jp/>